

# 中野地区まちづくり計画

『なかのよいまち』への道しるべ

2010年3月

中野地区まちづくり協議会

## 中野地区まちづくり計画とは

中野地区は、八風街道、畑街道、御代参街道を通した歴史や文化が交流する地域で、ランドマーク的な存在である太郎坊山、様々な時代を彩る歴史的な背景、大風の発祥にみられる文化、そして葉タバコの生産地として知られた、人々の知恵と暮らしによる市民自治の確立した地域でした。

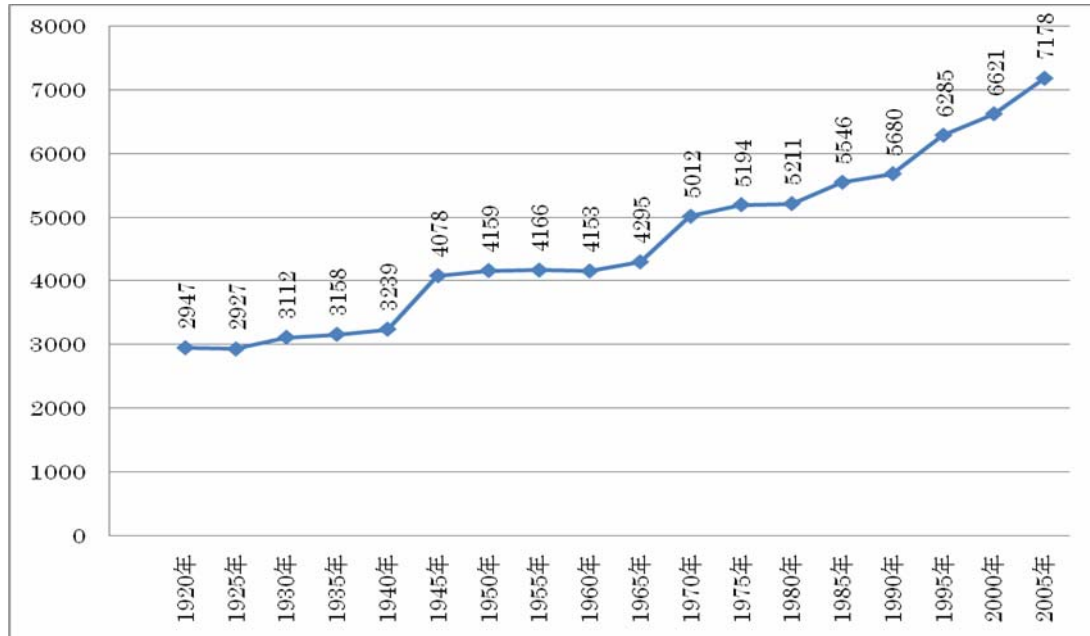
しかしながら一般的に言われている少子化や高齢化の進展、住み方・暮らし方など生活スタイルの変化や個人の価値観の多様化などについては中野地区でも例外ではなく、地域課題やニーズも多様化・複雑化してきています。そんな中、これからの私たちの地域はどうなっていくのか、どのような地域を目指していくのかが問われています。

今回のまちづくり計画策定では、課題を探るために各種団体へのアンケートやヒアリングを実施しました。そして住民を対象とした「まちづくりアンケート」では、中野地区の将来についての夢や希望など、まちづくりに関する提案やアイデアを募集しました。また、まちづくり協議会設立時から開催している毎年7日の円卓会議では、地域の課題や取り組んでいきたい事業などについて活発な意見が交わされています。

これらの中で出された意見や提案から、この「中野地区まちづくり計画 『なかのよいまち』への道しるべ」はできあがりしました。これは住民が自ら地域活動に携わり、よりよい地域を目指していくために、ともに描くまちの姿を示したものです。具体的な事業や実施時期について提示しているものではありませんが、この計画は、私たちが急激に変化する社会状況にしなやかに対応しつつも、揺るぎない思いで地域を見つめていくための道しるべなのです。

## 地区の現状

### \*人口の変化



これは大正9年（1920年）から平成17年（2005年）までの人口の変化をグラフで表したものです。これを見ると、戦後の第1次ベビーブーム時の急激な増加後、第2次ベビーブームでも増加していますが、その後、着実に人口が増えているのがわかります。これは全国的な傾向と比べて、大きな増加と言えます。

### \*地域活動団体・サークル（コミュニティセンター登録）

団体 自治会連合会・老人クラブ連合会・社会福祉協議会・子ども会連合会・青少年育成会・人権のまちづくり協議会・体育協会・防犯自治会・民生児童委員協議会・更正保護女性会・身体障がい者厚生会・ほのかな会・中野地区まちづくり協議会

サークル 中野書道教室・太極拳・油絵教室・混声合唱団サンデーエコー・BOD Y P I N K・ハートフルビーズ・八日市カラオケ教室・書道同好会・コーラス花みずき・クリーンサークル・いこいの会（健康推進員）・中野琴クラブ（文化琴）・茶道サークル・中野生花教室・ジャズダンスクラブ・中野料理教室・生命の貯蓄体操・コスモス太極拳サークル・中野

琴クラブすみれ会・アカネスポーツダンス・ふれあいサウンドなかの・  
スマレ・スマッシュ・ヨガ教室

## 活 動 の 課 題 ・ 地 域 の 課 題

多様な団体・グループの連携がとれていないため、さまざま活動が重複しており、有効に機能していない。

高齢化や人材不足のため次代の後継者がおらず、活動の継続が困難となる団体やグループがある。

既存団体の中には、活動が硬直化、形骸化しているところがあり、今後の展望が描きにくくなっている。

世代間交流が少なく、互いの声を聞きにくい状況にあるため、活動への参加、内容の展開などがスムーズに進まない。

人口増加による基盤整備の遅れがあり、日常生活面での不安が残る。またユニバーサルなまちづくりが進んでいない。

地区の子どもたちが複数の小学校に分かれて通っているため、地域とのつながりや連帯感をもちにくい状況にある。また地域活動への参加意識が低く、危機感も低い。

中学生や高校生、若い世代などの力をうまく活かせていない

## 提 案 や ア イ デ ア

- ・ 団結力ある地区になれば、いろいろな事に取り組むことができる。
- ・ 団体の活動をもっとつなげていきたい。

- ・世代を超えたコミュニケーションのとれる仲良い地域。
- ・防災マップをもとにした自治会ごとの計画を。
- ・身近な見守りができる仕組みが必要。
- ・資源の地域循環を進めてはどうか。
- ・花いっぱい運動など、きれいなまちにしたい。
- ・困ったときはお互い様なので、ファミリーサポートセンターみたいなことが近くに来たらいい。
- ・健康づくりのための活動。
- ・老人も子どもも成人も、みんなで集える場所でのんびり、ゆったりできればいい。
- ・南小学校跡地の活用提案は今がチャンス。八日市地区と合同もありうる。

## 中野地区の将来像

### 『 みんなで つくる なかのよいまち 』

「なかのよいまちだ」という思いと、「みんながなかよく暮らせるまち」であるようにという2つの思いが込められた、中野地区まちづくり協議会のキャッチフレーズです。

アンケートやヒアリングの中には、「子どもからお年寄りまでが安心して暮らせるまち」「みんなが笑顔で挨拶がかわせるまち」「隣近所仲良く交流し、弱者を助けることがあたりまえに思えるまち」といった、このキャッチフレーズをそのまま形にしたような思いがたくさん見られます。誰にとっても住みやすく暮らしやすいまちは、すべての人の願いなのです。そして一番大切なのは、そのまちをつくっていくのは地域の人自身だということです。そして、「なかのよいまち」をみなでつくっていくためには、一人ひとりができることもありますし、地域で取り組んでいくべきこともあります。ここでは、「なかのよいまち」をつくっていくために、何に取り組んでいけばいいのか、どのように取り組んでいけ

ばいいのかについてまとめています。

「なかのよいまち」は地域に住む一人ひとりが、そして地域みんなが思いをともにしながらつくっていくのです。

## 事業・活動の提案

### 地域の歴史・文化の掘り起こし

まち歩き・歴史探訪プロジェクトのさらなる推進と、その活動の成果を地域に広めていくための活動が必要です。

- ・活動成果をまとめた冊子やリーフレットの作成
- ・地域の文化や歴史を知るための講座やセミナー、見学会の開催 など

### 地域福祉

今後高齢化が進むことが予測される中、健康で楽しく暮らせる地域のために、高齢者をあらゆる側面から地域で支える仕組みが必要です。

- ・世代間交流も含めたサロン等のたまり場づくり
- ・体力づくり健康づくりのための講座やセミナー、学習会などの開催
- ・地域で安心して暮らせるための見守りや緊急時の体制整備 など

### 安心・安全

日常生活の安心・安全は多方面との関わりが多く、いろいろな分野からの目線が必要になります。その中で、優先順位の高いものから取り組んでいくことが大切です。

- ・災害時の避難経路、避難所についての周知徹底、自治会ごとの計画づくり
- ・通学路の安全点検や安全確保と子どもたちへの意識醸成 など

### 子ども関連

子どもがのびのびと自らの力を発揮して生活できる地域、そしてそれを周囲の大人が支えていく仕組みが必要です。

- ・子育て支援のためのサロンや育児中の人々がネットワークを築けるしくみづくり
- ・多くの人や団体が関わりながら進める体験活動や、活動発表の場の提供
- ・若い世代がまちづくりに関わるための仕組みとサポート体制の整備 など

#### 地域環境

これからの社会で大きな課題とも言える地球環境。そのために地域でできることは微力かもしれませんが、持続性ある生活環境の創造は欠かせません。

- ・ゴミ収集や花いっぱい運動など、地域の環境美化に関する活動
- ・リサイクルやゴミ問題について、実践を踏まえた学習や取り組み など

## 中野地区の重点課題

#### 南小学校跡地利用

南小学校の跡地利用については、現在までに、市からの説明会や周辺自治会での協議、また、まちづくり協議会の呼びかけで意見交換会を開催するなどの取り組みが進んでいます。箕作小学校平成22年4月開校、八日市南小学校平成22年9月開校と具体的な期日がはっきりとした今こそ、南小学校跡地を中野地区としてどのように考えていくかについて、地区全体の問題として全住民が感心を持ち、活発な議論を進め、多方面に働きかけていく必要があります。

- ・関係機関を含めた活発な議論の場の設定
- ・有効利用についての提案やアイデアの募集
- ・中野地区としての南小学校跡地利用案の作成 など

#### 地域自治拠点としてのコミュニティセンター

今後、東近江市内コミュニティセンターは、指定管理者制度での管理・運営という方向性が示されています。地域自治の担い手は、各自治会や地域活動団体、サークルまたそれぞれの分野での自主的な活動に携わる個人や団体などですが、地区全体を見通した

拠点管理・運営を継続的に担っていくことは、組織や体制等での困難さが伴います。

それらを踏まえ、自治機能をより一層高めたコミュニティセンター運営に向けて、積極的な姿勢で受け止め、動き出すことが必要です。

- ・ 指定管理者制度移行についての学習や検討
- ・ 事務局体制の整備
- ・ 各種団体やサークル間の情報提供や交流、コーディネート、ネットワークづくり

など

## 役割と連携

事業・活動の提案の中では、一定の角度からの切り口で整理をしましたが、実践においては、それぞれの分野が互いに関わりながら進めていく必要があります。子ども関連の活動が地域環境・生活環境向上に一石を投じたり、地域福祉の活動が安心・安全につながったりするのです。地域はさまざまな課題が複層的に重なりあっており、ひとつの課題を解決するためにはひとつの手段では不可能な場合もありますし、またひとつの課題を解決するといくつかの課題が解きほぐされていくことがあります。そのためには、それぞれの活動団体などが互いの目的や役割をきちんと把握しながら、力を発揮することが重要です。1 たす 1 が 2 ではなく 3 にも 4 にもなり、また 1 たす 1 だけではなく多くが関わることによって、さらなる可能性を生み出すのです。

しかし連携は「みんなで一緒に」では生まれません。どのような活動でも連携が必要といわれながらもなかなか進まないのは、「誰が」「いつ」動き出すべきなのかがわかりにくからです。そのためにも、自らの役割を認識しながらそれぞれが積極的に動くことが大切です。

## まちづくり協議会の役割

中野地区まちづくり協議会が発足したのは平成18年12月です。現在までに、プロジェクト事業や各種単独事業、広報紙の発行、自治会連合会を始めとする各種団体との連携による事業やイベント、地区内開催事業への協力などを行ってきました。また発足以来、毎月7日には、地区住民誰でもが自由に参加でき、自らが企画運営する円卓会議を開催してきました。

今まで実施されてきた事業をより魅力的なものとしてさらに磨きあげていくと共に、「みんなで つくる なかのよいまち」実現のために、住民自らが力を発揮できる場づくりが求められています。この計画書を実現していくために、また先にあげた中野地区の重点課題を解決するために、まちづくり協議会が担うべき、また担わねばならない役割は何かについて整理してみると、次のようなことが考えられます。

- ・ 地域課題の抽出、解決ための方策・手法へのアプローチ、解決策実施に向けての具体的な働きかけ
- ・ 地区内各種団体の連携のためのコーディネート役、またその先鞭役
- ・ 事業や活動の提案を実現するための体制整備
- ・ 指定管理者制度を踏まえ、地域自治拠点を活性化させるための管理・運営
- ・ 人材や資源の掘り起こし
- ・ 地域内の情報収集、情報発信

まちづくり協議会の担うべき役割について、地区内での十分な検討を踏まえながら、まずは重点課題に取り組んでいくことが求められています。